

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年10月27日(2011.10.27)

【公表番号】特表2010-539305(P2010-539305A)

【公表日】平成22年12月16日(2010.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2010-050

【出願番号】特願2010-525235(P2010-525235)

【国際特許分類】

C 0 9 F 1/04 (2006.01)

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 193/04 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 F 1/04

C 0 9 D 11/00

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 193/04

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二量化ロジンの製造方法であって、ロジンをカルボキシル化スルホン酸、アルキル基で置換されたアリアルスルホン酸またはそれらの混合物である触媒と接触させて二量化ロジンを製造することを含み、前記アルキル基で置換されたアリアルスルホン酸が少なくとも 5 個の炭素原子を有するアルキル基を含むことを特徴とする、方法。

【請求項 2】

二量化ロジンが、アルカリ塩または有機アミンにより中和されて中和化二量化ロジンを製造し、前記中和化二量化ロジンが、任意選択により界面活性剤の存在下で水中に分散されることを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

触媒が、カルボキシル化スルホン酸であり、並びに触媒がロジンに基づき 0.1 ~ 1 重量 % の濃度で存在することを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

触媒が、スルホコハク酸、5 - スルホサリチル酸、5 - スルホイソフタル酸および 4 - スルホフタル酸、およびこれらの任意の 2 種以上の組み合わせからなる群から選択され、並びに触媒が、ロジンに基づき 0.1 ~ 1 重量 % の濃度で存在することを特徴とする、請求項 1 ~ 3 記載の方法。

【請求項 5】

触媒が、アルキル基で置換されたアリアルスルホン酸であり、並びに触媒がロジンに基づき 1 ~ 5 重量 % の濃度で存在することを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

触媒が、ペンチルベンゼンスルホン酸、ヘキシルベンゼンスルホン酸、ヘプチルベンゼンスルホン酸、オクチルベンゼンスルホン酸、ノニルベンゼンスルホン酸、デシルベンゼンスルホン酸、ドデシルベンゼンスルホン酸、ドデシルジフェニルジスルホン酸、およびこれらの任意の２種以上の組み合わせからなる群から選択される、請求項５記載の方法。

【請求項７】

二酸化ロジンが、アルカリ塩、有機アミンまたはアンモニアにより中和されて中和化二酸化ロジンを製造し、前記中和化二酸化ロジンが水中に分散されることを特徴とする、請求項６記載の方法。

【請求項８】

固体のまたは水中の粘着付与剤樹脂としての、請求項１～７に従って製造された二酸化ロジンの使用。

【請求項９】

インク用途のために樹脂を改質するためのモノマーとしての、請求項１～７に従って製造された二酸化ロジンの使用。

【請求項１０】

接着剤組成物およびインク組成物における、請求項１～７に従って製造された二酸化ロジンの使用。

【請求項１１】

二酸化ロジンが、界面活性剤の存在下に中和される、請求項２記載の方法。